

## 起業の鉄則研究会(リーダー: 小林宏至常任理事)

平成 25 年 9 月 14 日(土) 14 時から甲南アセット大開ビル別館 5 階会議室にて講師とも  
で 24 名が参加し、本年度第 6 回目(通算 102 回目)の起業の鉄則研究会が開催された。

今回は健康をテーマに、様々な病気から守る自身の免疫力が、強すぎることで起きる弊害に  
注目し、免疫の研究・実績が豊富な医師丹羽耕三博士とその研究成果紹介の講義であった。免  
疫力が過剰反応し活性酸素ができると正常な細胞を攻撃する。このメカニズムで起きる身近な  
病気を治療する斬新な視点を学べ、健康管理の目からウロコの知識が身に付く研究会となった。

### ◆ 「病気の本質とは ～活性酸素と SOD～」

講師: 一般社団法人 丹羽免疫療法振興会 専任講師 森門 隆寿氏

- ・病気にかかったら病院に行くが、治療できる病気と治療できない病気をきっちり知っている人はほとんどいない。全ての病気のうち、病院に行って直せる病気は 10%以下しかない。
- ・治る病気と治らない病気の見分け方は、薬でわかる。病院からもらう薬が抗生物質ならば、菌が原因の病気なので、菌を殺せば病気は治る。それ以外でも日常の病気の多くが治るのは、自分の免疫の力による。健康を保つには自分の免疫力を高めることがポイントである。
- ・日本人は 2 人に 1 人が「がん」で亡くなる。3 人に 1 人は「アレルギー」になっている。
- ・ハエの寿命を実験したところ、広い巣箱の中だと 18 時間。意外だが牛乳ビンだと 58 時間も生きられた。なぜか? 生物が空気に多く触れると、実は酸化してしまう。酸化=老化である。
- ・研究によるとスポーツ選手は、普通の人に比べると平均 10 年寿命が短いことがわかった。激しく呼吸し酸素を多く使うと、人間も同じように身体が酸化する。マラソンの野口みずき選手や、増田明美選手は現役時代に疲労骨折している。これは骨が酸化=老化したから。
- ・これらから、病気の多くは、身体の中できた活性酸素が悪影響していることがわかってきた。病気原因になるウイルス、菌、カビは人の体内に入ると増殖する。これらにとって人の身体は、水分、栄養、温度が最適だ。最初は、これらから身体を守るために免疫として白血球が活躍する。白血球は活性酸素を作って敵から守るのだ。しかし、白血球は、ウイルスや菌でないものにも、疑わしい異物には活性酸素を作り攻撃するという習性があることがわかった。例えば、スギ花粉などで起きる花粉症は、スギ花粉をウイルスや菌と誤解して、白血球が活性酸素を体内に作り、身体の外へ追い出そうとして起きる症状である。活性酸素が過剰にできることで、正常な身体の機能までも破壊してしまう。実は、これがアトピー性皮膚炎やアレルギー症状のできるメカニズムだ。活性酸素はシワ、シミ、脳卒中などの原因にもなる。ストレスも活性酸素を発生させる。活性酸素が約 9 割の病気の原因だと考えられている。
- ・丹羽耕三医師は、体内の活性酸素を減らせば、アレルギーなどの症状を緩和・治癒できることを発見した医師の 1 人である。活性酸素を取り除く効果がある食物に大豆、ごまなどがある。丹羽医師はこれを SOD(Super Oxide Dismutase)と名付けた。人間の身体は退化した部分がある。1 つが胃液。牛や馬に比べて、大豆などに含まれる活性酸素を除く成分をうまく吸収できない。弊社は、体内に吸収できるように加工・製品化。服用すれば活性酸素を抑制し、アトピー性皮膚炎などの病気の改善に成功している。

※丹羽医師の功績や、SOD を服用したアトピー性患者の回復事例など DVD 映像を交えて鑑賞。

終了後、近くの料理屋「雄司」にて食事会と歓談がもたれた。ここでは日常業務での壁や、直面する課題に対し率直に意見交換。解決のヒントを得ることも多い。次回は 10 月 12 日予定。